特集コーナー

地域でがんばる 若き職人たち 建築家編

伝統的な優れた技能を駆使して、日本の文化を支えてきた、さまざまな分野の職人たち。いま、熟練技術者の高齢化、若年層の人材不足などで、職人の世界は窮地に立たされている。一方で、若い力で業界を盛り上げようと、仕事に情熱を傾ける職人も確実に存在する。今回は、地元でがんばる二人の建築家に話を聞いた。

京都で指折りと呼ばれる存在になりたい

キャンバスホーム。
(長岡京市)
瀧口 静さん(37)

話していると、大きな声でよく笑う瀧口さんは、いまや年商1億円を超す建築会社の美人経営者だ。9年前にひとりで会社をおこした。

幼いころから絵を描くことが得意。実家の住み替えを4回経験したことで、建築にも興味をもった。美術の力を生かせ、家づくりにも関われそうな短大の環境デザイン学科に進学。暮らしに役立つデザインやものづくりの技術を学んだ。

卒業後は、地元のエ務店や不動産屋などを転々と渡り歩く。営業アシスタントから始めて、リフォーム営業、現場監督などもこなした。着実にキャリアアップを図っていくが、仕事にやりがいを感じながらも、「お客さんの思い、それに応えたい現場の思い、その向こうにある利益重視の会社の考え。そのギャップ、まさならぬ状況に思い悩んでいました」

そんな中、リーマン・ショックのあおりで、勤めていた会社が倒産。それならばと、思い切って独立した。社名には、真っ白なキャンバスにお客さんと夢を描きたいとの思いを込めた。起業してすぐに会社を軌道に乗せるのは至難の業だが、瀧口さんはそれまでに培った人脈をフル活用。1年目から黒字を達成した。「お客さんや取り引き先とのつながりをずっと大切にしてきたお陰です」と振り返る。

会社の知名度も徐々に上がり、下請け仕事よりも自社で請け負う工事の方が多くなっていった。客層は、50代後半から70代までが9割近くを占める。子どもが親元を離れ、家は古くなってリフォームを必要とするシニア世帯が多い。どこの家庭も奥さんが主導権を握る。「水まわり設備の要望など、女性の瀧口さんなら話しやすい。お客さんの求めるもの、こだわりを予知に聞き取り、奥さんの身長や家事動線まで考慮した女性目線からの提案は、施主の信頼を獲得し、顧客リピート率は非常に高いという。

週に何度か飲みに行って、カラオケで発散している。同業者や異業種の人たちとの情報交換の場でもある。「いつかは京都で指折りと呼ばれるような存在になりたい」と目を輝かせる瀧口さん。まだまだ女性人口の少ないこの業界だが、「建築やものづくり、人と話すことが好きなら、女性も十分にやれる。むしろ、細かいところに気を配れる女性の方が向いているのでは」と、建築家を目指す女性たちにエールを送る。

顧客向けに発行している会報誌。住まいのお役立ち情報が満載で、女性らしい視点が感じられる。

フォーム 水回り
ーションは
・職人へ!
工務店・職人の方へ
国交省公認リフォーム業者が多数在籍
京建労への加入者大募集中!!
▶国交省「住宅リフォーム事業者登録」対応
▶厚労省認可の保険事務組合だから社会保険加入対策もバッチリ
建設関係者は頼りになる京建労へ!!
でんわ 075-662-5321 ホームページ kyokenro.or.jp

天秤座 (9/23〜10/23)
蠍座 (10/24〜11/22)
射手座 (11/23〜12/21)
山羊座 (12/22〜1/19)
水瓶座 (1/20〜2/18)
魚座 (2/19〜3/20)
エミリィ・グレース検索